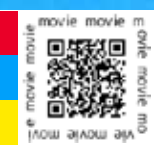




ほんとうに
宇都宮？



餃子だけじゃない宇都宮の魅力を、 知ってしまいました。

こんにちは。田中泰延と申します。

宇都宮には何度も来たことがあるんです。日光や、那須の温泉が好きで、そこへ向かうとき、必ず新幹線や車で通るのが、宇都宮。僕はそのたびに途中下車して餃子を食べるという楽しみを満喫していました。



餃子の街、宇都宮。日本中がそう思ってますよね。

もちろん、「宇都宮」という地名の由来になったといわれる宇都宮二荒山神社にお参りしたこともあります。

夜は宇都宮屋台横丁をぶらついたり、お土産にイチゴを買って帰ったりと、それなりに宇都宮を知っているつもりだったんですが、人に「宇都宮ってどんなところ？」ときかれたら、やっぱり「うーん、餃子の街」と答える程度にしか知らなかったんです。

そんな僕に今回、「餃子だけじゃない宇都宮の魅力を教えてください。きっと、田中さんが知らない場所をお教えます。そして、宇都宮に住み続ける人をご紹介します。ぜひ、宇都宮のこと、きいてみてください」というお話がありました。

上野駅から宇都宮駅まで、新幹線ならわずか40分強。そこで出会った場所と、人。帰りには僕、すっかり「東京で仕事をするにしても、宇都宮、住んでもいいんじゃないの？」という気持ちになってしまいました。

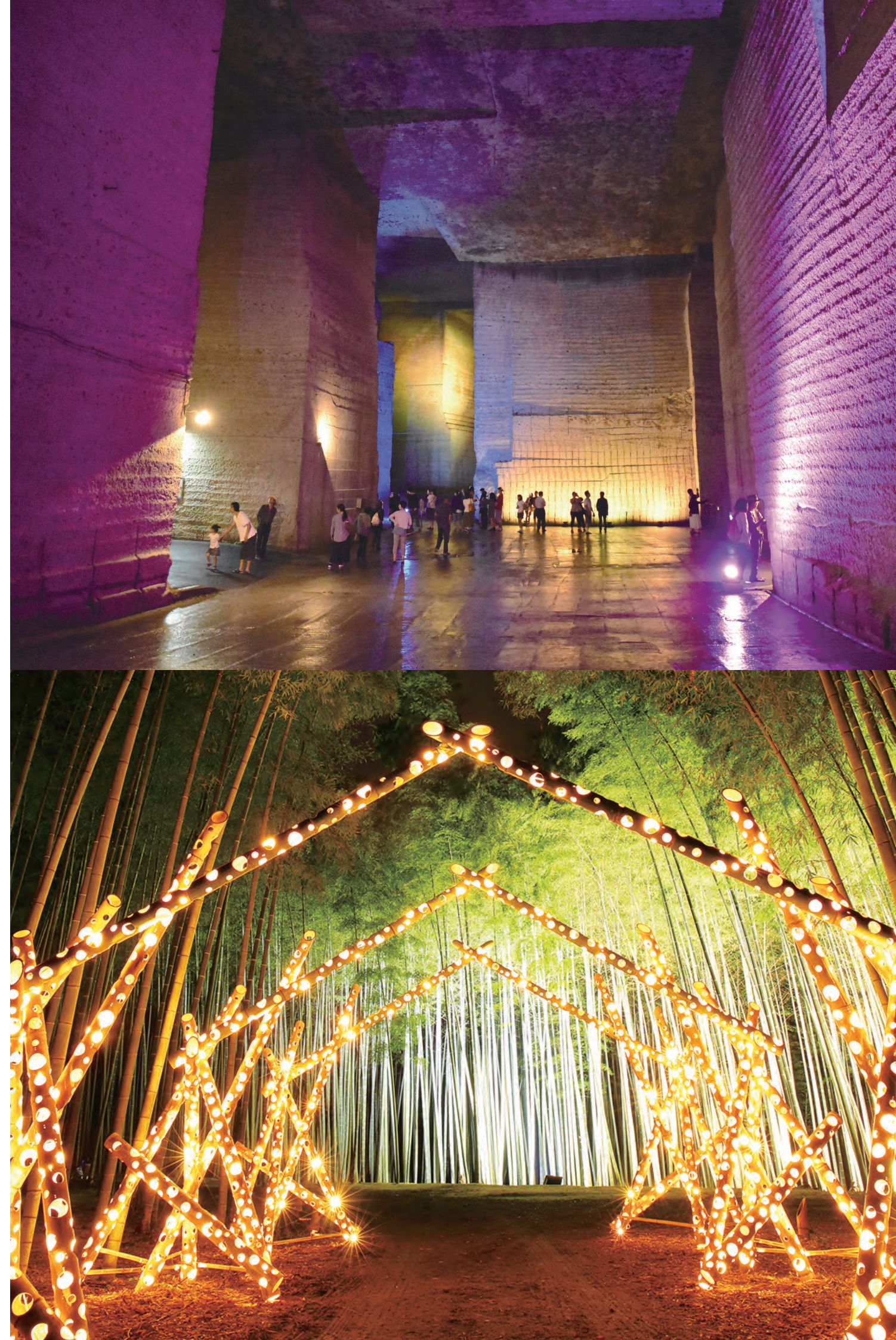
お会いしたのは、大谷石の採掘場跡地でカフェ「ロックサイドマーケット」を営む高橋智也さん。そして、プロバスケットボールプレイヤーの田臥勇太さん。

では、お二人の宇都宮愛を、伺ってみましょう。

Writing
田中 泰延



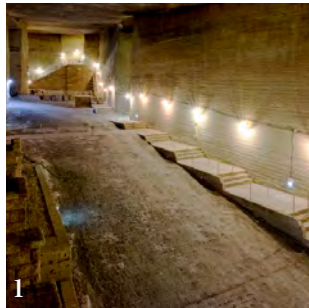
株式会社 電通でコピーライターとして24年間勤務ののち退職、2017年から「青年失業家」を名乗り、ライターとして活動始める。
2019年6月初の著書『読みたいことを書けばいい。』を上梓、Amazon 和書総合1位を記録し、現在16万部突破。
ツイッターアカウント: @hironobutnk



Tomoya Takahashi

高橋 智也

ROCKSIDE MARKET, ISLAND STONE COFFEE ROASTERS Owner



1. 地下に巨大な空間が広がる大谷石採掘場跡（大谷資料館）
2. カフェでは大谷地区で採れる苺を使ったメニューが豊富に
3. 日本最古の石仏「大谷観音」。平安時代(810年)弘法大師の作と伝えられている



高橋 智也

ロックサイドマーケット
アイランドストーンコーヒーロースターズ
経営者

栃木県生まれ育ち、宇都宮在住。2016年、大谷石採掘場跡の閉店した土産物店を改装し、カフェ「ロックサイドマーケット」をオープン。「この土地で働き、この土地で遊び、この土地の未来を考え、そして、この土地の暮らしを楽しむこと」を合言葉に、大谷石のアイテムも販売。

東京と同じ土俵で活躍できる場所を作れるんじゃないかなと。

「僕は生まれも育ちも、宇都宮で。栃木を一度も出たことがなくて」（田中泰延）——私は大阪出身なので、何度か宇都宮で餃子を食べたりしたんですけど、それ以上のこと知らなくて。そうですね。宇都宮は」

——こんな石の名所があるとは知りませんでした。

「地下の採掘場跡は行かれました？」
—— 壮大な空間でした。幻想的で、見たことない世界でした。

「地下でウエディングもやってるんです」
—— ウエディング！
「チャペルもあるんです」

—— そもそもなぜこの場所でお店を？
「大谷地域は石の産業で発展した街なんです。採掘場跡地は観光地だったんですが、僕が子供の頃にはたくさんのお客さんが訪れていて。それが人が少なくなってしまう、衰退した町に驚いちゃって。そこで、地域貢献ってのをやってみたいぞと。それで、このお店を出したんです。

修学旅行とか遠足とか、生徒さんがよく来られるんで、そのとき、さびれた町じゃつまらない。子供たちが、『大谷町面白かったです』って言うってもらえる環境を復活させたい、それがほんと一番のきっかけです」

—— 私も今回、宇都宮に来るにあたって、どんなところだろう？って検索するじゃないですか。

—— 過去と現在があるなら、未来の話。「そうですね。これからの夢。栃木県出身で活躍されている方って、たくさんいらっしゃるって。でも、やっぱり東京拠点なんですよ。それを知った時にちょっと悔しくて。栃木で活躍したくても、場所がないんだなって。

一人でも二人でも地元・栃木で、その能力を活かせるって人を増やしていきたい。
で、その場所を作る上で、こういう変わった石の町でやりたい。
大谷石に囲まれた空間って、特殊で、想像力をかきたてられる場所です。そんな『個性的なコンテンツ』を持っている土地って限られてますから」

そしたら今はまずここが表示されて。「今年で6年目になりまして。宇都宮に来られる方が、たくさんここを目指すようになってくださいました」

—— ここでは苺も作ってるそうですね。さつき、食べさせてもらったんです。フレンチトーストに苺に乗ってる。あの苺ですね。

「この地域で作っているのは、冬にできる苺じゃなくて夏に採れる苺なんです。地下の冷たい水をくみ上げて冷熱エネルギーにして、活用しながら栽培しています」

—— 大谷石の歴史は古いんですね。さつきここに来る途中の大谷寺にお参りしてきました。平安時代に彫られた大谷観音があって。大谷石は凝灰岩として丈夫で軽くて、いろんな建材にもなってます。

宇都宮市内でも大谷石でできた建物を見ました。東京の帝国ホテルの旧本館はアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトが大谷石を使って建てたとか。「詳しいですね」（笑）
—— 調べました（笑）。

「文化遺産でもあり、それから商業施設になった。そういう積み重ねがこの場所の魅力です。それが大谷地区の過去と現在なんです、ここでカフェをやる理由は、実はもう1個ありまして」

—— こういうところにクリエイターが集まったら面白そうですね。

「そうそう、そうなんです。だから、宇都宮を移住先の候補として是非入れていただきたいたくて。東京から、新幹線であつという間です。それに、仕事してる中で疲れたとかストレス抱えるっていうのも当然あると思うので、そんなとき、ちょっと車を走らせれば、山があつて川があつて、自然にすごく近い。生活の居心地はもう抜群にいいと思います。
宇都宮なら、東京と同じ土俵で、活躍できる場所を作れるんじゃないかなと。最終的にはそういう場所を作りたいんです」

長く住めば住むほど 宇都宮の魅力を伝えたくになります。



1. 日本で唯一無二の、丁寧に手入れの行き届いた竹林は、壮観の一言に尽きる
2. 若山農場 若竹の杜では竹を使った茶器で野点が楽しめる
3. 映画やCMのロケ地にも選ばれる金明孟宗竹は黄金色の穂が特徴

「宇都宮に住んで、もう13年目になります」
 (田中泰延) — 餃子もお詳しいですか？
 「餃子は数えるくらいしか食べたことないんです(笑)」
 — 13年間で？！餃子以外の魅力を伝えたいというこの記事にぴったりです(笑)。
 神奈川県のお生まれで、秋田の能代工に行かれた時に初めて他県に引っ越しされたんですか。
 「そうですね、親元離れて。都会と違う部分に魅力を感じましたね」
 — アメリカ生活を経て、宇都宮へ移住されて。宇都宮は都会だし、それで今日お伺いしているような自然もあって。
 「そこが宇都宮の非常に良いところ。都市部から離れると自然もありますし、東京にもぽつと出やすいです。バランスがいいなっと思うんですよね」
 — 外でトレーニングもされるわけ、お好きな場所ありますか。

「宇都宮美術館があるんですけど、そのあたりは山の中を走れるんです。自然の中で気持ちいいですね」
 — 僕は今日、こちら「若山農場 若竹の杜」にお伺いしてますが、宇都宮には、こんなところもあるんだなって。「僕も初めてです。びっくりしてます」
 — 竹ってタケノコが土を突き破ってどんどん伸びる。田臥さんがいらっしやる「宇都宮ブレックス」のチーム名には「ブレイクスルー」という意味も込められていると知りました。
 だから竹がどんどんブレイクスルーする場所でお話を伺いたいと。
 「ああ(笑)、いいストーリー」
 — いいストーリーです(笑)。なので、今日はバスケの話じゃなくて、宇都宮に長くお住まいの田臥さんに、宇都宮のいいところのお話を伺いたくて。

「街中に住んでいても、自然にあふれた場所にすぐ来れるというのが、宇都宮に住む楽しみの一つです。色々などを楽しんでもらえたらいいな、って思います。
 よく聞かれるんです。『東京までどのくらいなの？』って。『新幹線なら40数分で着いちゃうよ』って教えると『そんな近いんだ！』っていつも言われます。来てくれた人も必ずまた行くね、って言うってくれるので、それが嬉しいです」
 — 住み続けたいですか、宇都宮？
 「長く住めば住むほど、応援してくれる方がたくさんいてくださって、どこへ行っても声かけていただいて、本当にみんな気さくで。食堂行ったら、おばちゃんがよくしてくれたりとか。食事もおいしいものたくさんありますし、自然もたくさんあって住むのを楽しむことができる。」

「街中に住んでいても、自然にあふれた場所にすぐ来れるというのが、宇都宮に住む楽しみの一つです。色々などを楽しんでもらえたらいいな、って思います」
 — 宇都宮は、餃子以外にも、プロスポーツのまち宇都宮とも言われていますね。
 「サッカー、バスケ、自転車もあります。他にも栃木県全体で見てもアイスホッケーや野球など...
 こんなにプロスポーツが存在する場所ってなかなかないと思います」
 — すごく密度ですよな。
 「子供たちも色んなスポーツに興味を持ってもらえるチャンスが広がる街ですね」
 — アメリカでNBAにいらしたとき、地域の子供とチームの関りみたいなものって、参考点がありましたか。
 「ありましたね。
 例えば、病院を訪問したりとか、チャリティ活動が当たり前のように存在していたので、非常に勉強になりましたね」

「スポーツ都市としての宇都宮で今後、田臥さんが広げていきたいことはありますか」
 「他のスポーツの選手が試合を見に来てくれたり、異なるスポーツの選手や団体が協力しながら、交流が増えていったらいいと思いますね」
 — 他のスポーツ選手がバスケットボールの試合を見に来る？
 「そうですね。僕もいろんなスポーツの試合を観に行ったりします。
 それでお互いレベルアップしあって、それぞれの競技のファンの方が、また別の競技に興味もってもらえたりしたら」
 — バスケットボールや田臥さんのことを好きな人が、田臥さんが好きな別のスポーツを好きになってもらえるといいですね。
 「そうですね。宇都宮なら、広がっていくと思うんです」

Yuta Tabuse

田臥 勇太

Pro basketball player | Utsunomiya Brex



田臥 勇太

プロバスケットボール選手(宇都宮ブレックス)

神奈川県生まれ。能代工業高校、ブリガムヤング大学ハワイ校、トヨタ自動車アルバルク(現・アルバルク東京)を経て、2004年にNBAのフェニックス・サンズと契約。日本人初のNBA選手として計4試合に出場。2008年にリンク栃木ブレックス(現・宇都宮ブレックス)に入団した。宇都宮在住13年目。



ほんとに
宇都宮

